

2020年12月21日

CDPの気候変動評価でリーダーシップレベル「A-」を獲得

太平洋工業株式会社は、環境課題に関する取り組みや情報開示の質を評価するCDPの調査において、サプライチェーンとして回答し、気候変動に関してリーダーシップレベルの「A-」の評価を受けました。

CDPは、2000年にイギリスで発足した環境関連の企業の情報開示と取り組みを促す国際NGOとして、高い影響力をもっています。今年の世界9600社以上の企業がCDPを通じて情報を開示しA、A-、B、B-、C、C-、D、D-の8段階の評価を受けました。

当社は今年、「気候変動の緩和および適応」を含むサステナビリティに関する15のマテリアリティ（重要課題）を特定しました。合わせて、環境のマテリアリティと連動した長期目標として「PACIFIC環境チャレンジ2050」を策定し、CO₂排出量を2050年までにゼロ、2030年までに35%削減（2019年度比）を掲げ、グループで取り組みを進めています。

また当社では、本取り組みを国連が2030年までに実現をめざすSDGs（持続可能な開発目標）のゴール7（再生可能エネルギー）、13（気候変動）にも関連する取り組みに位置づけています。

今後とも、「気候変動への緩和と適応」を始めとしたサステナビリティ経営を進め、地球環境・社会とともに持続可能な成長を実現していきます。



CDP Web サイト

<https://japan.cdp.net/>

PACIFIC 環境チャレンジ 2050

<https://www.pacific-ind.co.jp/csr/environment/management/#2050>